

特集：大学説明会

学生による大学説明 —大学進学を考えること—

佐野 遥香（筑波大学 生物学類 1年）

私が高校生の時のことをこの大学説明会で思い出した。受験生にとって7月8月は受験勉強の最も大切な時期と言っても過言ではないだろう。私も受験勉強をしていたわけではないが、自分の研究に精を出していたし、毎日実験室にこもって実験を繰り返しては失敗を繰り返していた。どんな受験方法を選択するにしても、この時期はとても重要であったと思う。

今年は筑波大学で国際生物学オリンピック (IBO) が行われたこともあり、生物好きが集まっているのだろうなと思った。実際に推薦入試やAC入試などの、学力面以外の入試希望者から多くの質問が寄せられ、私は正直、こんなにたくさんの方が推薦やAC入試を考えているのかと驚いた。入試についての不安や、大学生活などの質問が多く、真剣に入試を見据えているのだろうということを受け取ることができた。目の前の受験生は目の輝きとてもキラキラしていた。そんな受験生に少しでも、参考になればいいと思って、私も頑張った。

筑波大学の推薦入試は高校の成績や個人研究などの成果を評価の対象とする。まず、高校の担任や校長先生から筑波大学に推薦状を提出し (1次審査)、その後返送される受験票をもって、筑波大学で、2次審査を受けるのだ。2次審査は二日間行われ、筆記試験と面接試験が行われる。受験の形式などは受験要項などに記載されているので、私は受験生の目線でアドバイスをしたと思う。一日目の筆記試験は、英文、和文の問題で、おおよそ5題出題される。

- 英文、和文ともにわかる問題、わかりそうな問題から取り組む。
- 文章を書くときは要点を押さえて、簡潔に書く。
- 分からなくても、何か書く。

きっと、当たり前のことばかり、書いてあると思っただろうが、その通りである。しかし、これが難しい。わかりそうな問題から取り組むのは、自分の気分をあげるとともに、少しでも、回答する時間や気持ちに余裕を作るためである。しかし、わかりそうな問題を短時間で済ませるのはわけが違う。時間をかけるべき問題とかけない問題をしっかりと、見極めなければならない。穴埋め、選択など、基本的な知識を問う問題は時間をかけてはいけない。時間をかけるべき問題は自分で考えて答える問題、つまり、模範解答がないタイプの問題だ。自分の意見、実験の手順を考えて答える問題、そして、「～について述べなさい」タイプの問題。その際は要点を押さえて書くことが重要で、その解答用紙を読む人がほしい情報を書く必要がある。しかも、それを遠回りするのではなく、明確に的確に書かなければならない。回答欄は結構大きいし、中には文字数が指定されているものもある。その文字数内でいかにほしい情報を入れるか、回答欄の中にいかに、わかりやすく書けるかは、試験の日だけでできるわけがない。私は、毎日の日記を書いたり、生物のさまざまな現象や実験系を文章で表

現する訓練をした。小さなノートや原稿用紙に、書き、自分で読んでみる。自分では合格でも、生物の知識があまりない第三者に見せると、自分の文章の穴が見えてくる。つまり、読む人がほしいがどこなのか、わかってくるようになる。第3者がいない場合は、押さえておきたいキーワードをリストアップするのは効果的である。これは、「以下の単語を用いて説明しなさい」という問題の対策にもなる。たとえば、光合成を説明する際には

- 葉緑体
- 太陽光
- 二酸化炭素
- ブドウ糖
- エネルギー

などの単語をあげておく。そのうえで、文章を書いてみると、書きやすい。

それでもわからない問題は出てくるかもしれない。そんな時は何か書く。白紙では点数はつかない。文章から少しでも情報を得、自分の予想でもいいので書く。もしかしたら当たるかもしれない。あきらめないで、最後まで頭を絞ることは何事にも大切だと思う。しかし、そうならないためにも、日頃から勉強をすることが一番大切だと思うが、どうしてもダメな時でも、白紙ではもったいないと思う。また、試験会場は、空調の状況が分からないので、重ね着をし、脱ぎ着で調節することをお勧めする。また、会場までは、厚めのコートで着たほうがいい。筑波の冬は予想外に寒い。

二日目は面接試験だ。前日に掲示板に貼られた順番表をみて、自分の集合時間を確認しておく。面接試験には

- 前日の試験のことは忘れて挑む
- にこにこして挑む
- 将来を考えておく

ということが大切でないかなと思う。筆記試験があまりできなかったからといって、暗い顔で面接に挑んでは、もったいない。筆記試験と面接試験は別で、筆記試験が悪いからといって、面接試験の成績を落とされることはない。そうであれば、面接試験で頑張ろう位の気持ちで、前向きに取り組みたい。もちろん、緊張しているのは分かるが、怖い顔で面接しても緊張に拍車をかけるので、少し、にこにこすることで、自分の緊張も解ける。また、面接官の目を見て話すとよく言われるが、実際には緊張する。そんな時は相手のネクタイの結び目、鎖骨付近を見て話すと、面接官には、目を見られていると感じるし、受験生も緊張しなくて済むだろう。また、事前にウェブページで筑波大学の様子を見ておくと、緊張を軽減することもできる。

そして、私が一番必要だと思うのは、未来を考えておくことである。入学したい気持ちももちろんのこと、入学してからや将来、どのような仕事や研究をしたいかを考えておくのは重要で、この

未来に関する質問は多くの面接で質問される。その時に、具体的なことまで話せることはかなりポイントが高いただろう。

そうは言っても、やはり筑波大学に入学したい気持ちが最後には力になると思う。心配しながらの学習よりも、入学したら何がしたいかなどを想像し、努力をしたほうが効果的だろうし、やは

り、大学側もそのような受験生を求めている。そのように自分としっかりと向き合うことが重要だろう。

Communicated by Shinobu Satoh, Received August 18, 2009.